

第6回江別市生涯活躍のまち構想有識者会議開催結果（要旨）

日時 平成29年2月24日（金）10時00分～10時30分
場所 江別市民会館32号室
出席者 澤井秀座長、中川雅志座長代理、小原克嘉委員、西懸昭子委員、斎木雅信委員、
鴻野徹委員、吉川邦俊委員（計7名）
傍聴者 なし

会議概要

1 開会

2 報告事項

（1）江別版「生涯活躍のまち」構想（最終案）について

－ 事務局より最終案について説明－

- ・ 2月16日の市議会総務文教常任委員会において、策定進ちよく状況の報告をした。
- ・ 委員から「今後も構想進ちよくの状況について、報告されたい」との意見があった。
- ・ 構想案は第5回の案と変更がない。
- ・ 今後は、この構想の重要な要素である高等養護学校の誘致の状況を踏まえながら、事業化の検討を進めていく。
- ・ 事業化の際には、また様々な意見を取り入れる機会をつくりながら、事業計画をつくっていきたいと考えている。

（澤井座長）江別版「生涯活躍のまち」構想は、この有識者会議の協議結果を踏まえ、最終的に江別市が決定する予定である。事務局より、構想の最終案については、前回有識者会議で各委員に確認いただいたものから内容に変更がないと説明があったが、改めて確認したい。事務局からの説明された構想の最終案について、提案のとおり確認してよろしいか。

（各委員）了

3 その他

（澤井座長）続いて、次第の「その他」に進む。この有識者会議は、本日が最終回である。この構想についての期待やコメントなどがあればご発言いただきたい。

（小原委員）短期間で、江別市の大きな課題解決に向けた構想をつくり上げることができた。澤井座長の手腕と、事務局のきめ細かな対応があったためと思う。大変嬉しく思っている。多くの市民は、江別版「生涯活躍のまち」について中身が分からないという状況ではないかと思われるので、多くの人に一日も早く知ってもらうために努力をしていきたい。大麻・文京台地区の市長との対話集会では、市長から説明をいただき、出席者からは「ぜひとも進め

てほしい」と意見があった。高等養護学校の誘致の問題とあわせて、一日も早く実現に向けて構想を進めてもらいたい。

(吉川委員) 金融機関の立場で話をしたい。人口減少という点において、金融機関も行政と同じような課題がある。人口が減少すると、金融機関の営業基盤にも影響してくる。各自治体は人口減少や定住という課題に取り組んでいる。人口減少時代においても、金融機関として役割を果たすことができる基盤が必要であり、新しいビジネスモデルを開拓する必要がある。行政の皆さんと一緒に取り組んでいきたい。特に、我々は江別市にいることから、江別市発展のために金融機関としてできることを一緒に考えていきたいと同時に、金融機関の応援もお願いしたい。

(斎木委員) シルバー人材センターとしての立場で参加した。全国的に派遣労働の拡大が進められている。若年労働者が足りなくなる中、江別市のシルバー人材センターは企業などからの依頼が多く、全道でもトップクラスの人材を派遣している現状である。今は、「定年退職したら、シルバー人材センターで仕事をする」という時代ではなくなった。「生涯活躍できるまちをつくる」ためには、ボランティア活動やNPOなど、多様な選択肢・社会資源が必要である。今回の構想は、そうした選択肢の一つの姿であると感じている。構想実現にはさまざまな課題があるが、高等養護学校の誘致が一番のポイントとなる。本構想を通じて、新たな高等養護学校の姿を示すことができると期待している。なるべく早期に事業化に向けた取り組みを進めてほしい。

(鴻野委員) 商工会議所の立場として参加した。江別版「生涯活躍のまち構想」は、江別市民が暮らし続けられるまちづくりがテーマとなっており、江別市らしい構想となった。今後、いくつも拠点ができ、最終的には、まちなかに人が集まるような仕掛けができればと感じている。

(西懸委員) 江別市では、生涯学習を楽しむ市民がたくさんいる。この構想を通じて、生涯学習に取り組みながら、さらにいきいきと暮らし続けられるまちづくりができると良い。

(事務局) 最終回の会議となった。6回に亘って内容の濃い議論を重ねていただき、改めてお礼を申し上げる。今後、事業化に向けた検討課題があり、改めて皆様に声を掛けさせていただく機会があるかもしれない。その時は是非、力を貸してほしい。

(中川座長代理) この構想は高等養護学校の誘致が前提となっており、事業化にはもう少し時間がかかると思っている。その間、江別市には、本構想の一層の周知に努めていただくとともに、着実に事業が進められるよう準備をしていただきたい。我々も、委員として構想策定に関わってきたので、今後も構想実現に向け協力をしていかなければと思っている。

(澤井座長) 短期間で立派な構想案ができて嬉しく思う。委員の皆様にはお忙しい中ご協力いただき、改めて感謝申し上げます。また、事務局は、いろいろと苦勞されたことと思う。この構想案が近い将来実現して、江別市がさらに住み良いまちになることを祈念したい。次に構想策定に係る最後の有識者会議に当たり、三好市長より挨拶願いたい。

(三好市長) 昨年の7月以来、6回にわたる有識者会議にご参加いただき、また、専門的な立場から多くのご意見を頂戴できたことに心から感謝申し上げます。皆様方の積極的なご発言・ご意見により、構想案を無事にまとめることができた。平成25年に総合計画を策定した際、多くの市民から「江別市に暮らし続けたい」という意見をいただいた。また、今回、江別版「生涯活躍のまち構想」策定に当たって実施したアンケート調査においても、「暮らし続けたい」と考える多くの市民の存在が明らかになった。市民の強い思いを感じ、その思いに応えるために、本構想に基づいて事業を展開していきたい。江別市には、大学など「江別市ならではの」社会資源があり、また、活発な活動をしている高齢者の団体がある。さらに、市民の中には、障がいを持っている方々もいる。そうした方々が役割を持ちながら、共に生活できるまちづくりをしていく必要がある。それが「共生のまち」「協働のまち」であり、そこを目指して我々は努力していく。いち早く、そうした姿を市民に示すことができるのが、本構想における「大麻地区モデル」である。有識者会議の中では、「大麻地区モデル」を江別市全体に波及させるべきだとの意見をいただいた。江別市全体に、このモデルに基づいた考え方を広げていきたい。高齢者、障がい者、若者など、立場を問わず役割を果たせる・享受できる仕組みづくりが、我々が目指すべき社会の姿である。今回の構想検討では、皆様からそうした提案をいただいたと思っている。構想実現には、高等養護学校の誘致が前提となる。盲学校跡地に高等養護学校を誘致して、高齢者、障がい者、学生などが共に働き、生活できる場づくりに取り組む。その先に、我々が目指す共生のまちがある。澤井座長、中川座長代理、そして委員の皆様、熱心にご審議をいただいたことに心からの感謝を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

4 閉会